

2024 年 2 月 9 日

理事長 植木 實 殿

所 属 長



長期学外研修に関する報告書

【研 修 者】	所 属	形成外科
	職 名	助教
	氏 名	浅香 明紀
【研修期間】	2023 年 10 月 1 日 ～ 2023 年 12 月 31 日	
【研修先】	Chang Gung Memorial Hospital	
【研修目的】	顔面骨骨切り、睡眠時無呼吸の外科的治療の見学	
【課題内容】		
2023 年 10 月 1 日～12 月 31 日までの 3 カ月、台湾の Chang Gung Memorial Hospital (CGMH) の Craniofacial Center へ短期留学する機会を得た。 私が 3 か月間師事していた Prof. Clement Lin は Orthognathic Surgery(OGS)の中でも睡眠時無呼吸症候群(Obstructive Sleep Apnea : OSA)に対する外科治療を専門としている。OSA は、糖尿病やうつ病、高血圧、脳卒中、肥満などが引き起こされやすくなる事や、交通事故を起こす可能性の増加(オッズ比 7)、生産性の低下などが知られており、治療は非常に重要である。 OSA の治療は Continuous positive airway pressure (CPAP)が第一選択であるが、重症度の高い骨格性の OSA 患者ではアドヒアランスが悪く、有効ではない症例がある。欧米諸国では OSA 治療の根本的治療として、OGS は認知されており、治療成績は CPAP を超えるとの報告もある。しかし、アジアでは骨格的な OSA が多い人種といわれているにもかかわらず、未だ標準治療としては確立されていない。問題点として、flat face のアジア人に上下顎の前進術を行うと、顔貌の変化（上下顎突出による monkey face になる可能性があることと、その侵襲性があげられる。これに対応するために、CGMH では上下顎骨切りに上下の segmental osteotomy を追加することや、counterclockwise rotation を加えることで対応していた。 本邦では、OSA の外科治療は現在普及しているとは言えないが、潜在的な患者は多く、今後需要の増加が見込まれる領域である。不正咬合を伴う OSA に対しては外科手術の保険適応があるため、各診療科とともに睡眠時無呼吸の包括的な治療体制を構築し、この経験を今後の診療に生かしていきたいと思う。		

※わかりやすく簡潔に記載して下さい。(800 字～1000 字程度)

※ゴールドマン・サックス若手医師長期海外留学支援奨学基金、田中忠彌国際交流基金の制度を受けた留学後の報告は、別途専用の報告書を使用し総務課に提出。それ以外で長期学外研修制度を利用した場合にこの様式を使用し、人事課に提出。